

世界中の人々に水を

秦野市立東中学校

二年 小泉 璃空

あなたは、水についてどう思いますか。

僕が思う水は、蛇口をひねればすぐ出てくるものだと思います。風呂やトイレ、料理をするにも水は必要です。洗濯や掃除も水がなければできません。学校生活では、給食やプール、美術の時間の絵の具、花壇の水やりやスプリンクラーも水がなければ使えません。水について考えた時、あたり前のことですが、僕達は水がないと生活していけないのだなと思いました。

この生活に必要な不可欠な水が急に使えなくなってしまう時、どうなってしまふのだろうとも考えました。テレビで、アフリカやインドなどでは、水不足が深刻化しているというのを見たことがあります。僕達は、水道か

らいつでも安全な飲み水を飲むことができますが、アフリカなどでは、安全な飲み水を確保することが非常に困難なのだそうです。都心から離れた農村地帯などでは、子供達が往復六時間もかけて、危険な場所に水をくみに行くというのを見て、とても驚きました。僕達が学校に行っている間、生きるために一生懸命、険しい道を何往復もして、重たい水をくみに行っているということを知って、いたたまれない気持ちになりました。そして、何より驚いたことは、苦勞してくみに行った水が安全ではないということでした。その水はひどく汚染されていて、僕達が飲む透明な水ではなく、すごく濁った水でした。生活に必要な水が、このように汚染されていても、この水を飲まないと生きていけません。それが命に関わるとしても、伝染病につながっていることを、知っていても飲むしかないのです。浄水処理が一切行われていない、川や池からくんだ不衛生な水を飲んで、様々な健康被害を引き起こし、抵抗力の弱い子供達が毎日、五千人以上も命を落としているというのを知って、この水不足の問題ができるだけ早く解決すればいいと思いました。

国連が採択したSDGsでは「二〇三〇年までに地球

上のすべての人が安全な水や下水衛生施設へのアクセスを可能にすること」を目標の一つに掲げているそうです。少しずつ、安全な水へのアクセスや衛生環境が徐々に向上し、改善もされてきたようですが、世界にはまだまだ安全な水が確保できずに、濁った水を生活全般に利用して暮らしている人々がたくさんいます。

農村地域の水環境を改善し、遠くまで水をくみに行かなくても近くで安心して飲める水が手に入れば、子供達も昼間は学校に通うことができます。教育を受けることで、水環境の改善に取り組むための知識や技術を学び、将来につながっていくのではないのでしょうか。

この問題は、決して簡単なものではありません。ですが、僕達にできることは、水を大切に扱うということではないでしょうか。蛇口の水を三十秒間出しっぱなしにすると、約六リットルもの水を使うことになるそうです。蛇口やシャワーの出しっぱなし、洗い物をする時の水の出しっぱなしに気を付け、節水できるところは節水し、水を大切にしていかなければいけないと思いました。

世界中の人が安心して、安全な水を飲むことができるよう、一刻も早く水環境を整え、少しでもSDGsの目

標に近付くことができるかと思っています。これからも、自分に出来ることを続けていこうと思います。